

## 成績評価基準（令和5年4月改定）

大阪教育福祉専門学校

### （成績評価と GPA の付与基準）

- 各授業科目の評価は、各授業科目の到達目標を観点として、学習内容の習得度・理解度及び平常の学習状況や出席状況等を総合して決定する。学習評価は、その評点によって以下の評語に示される。

また成績の総合的かつ客観的な基準として、GPA（Grade point Average）を設定し、成績評価に対応して評点を意味する GP（Grade point）を付与する。付与された GP に単位数を掛け、その総和を履修登録単位数の合計で割ることで履修科目の成績評定平均値を意味する GPA を算出する。

評語	評点	GP	基準
秀	100～90点	4	到達目標の内容を十分に理解したものと認められる。
優	89～80点	3	到達目標の内容をほぼ理解したものと認められる。
良	79～70点	2	到達目標の基幹部分は理解したものと認められる。
可	69～60点	1	到達目標の最低限の部分は理解したものと認められる。
不可	59点以下	0	到達目標に及ばない。
	失格	—	欠席過多による失格。
単位認定	認定	対象外	他校で取得した単位を認められた場合

### （成績評価の方法）

- 成績評価については、学習内容の習得度・理解度を総合的・多面的に図るために必ず複数の観点から行う。各教科目の特性によって多様な評価方法が想定されるため、以下の例示を参考に2つ以上の評価方法を選択し総合的な評価をおこなう。各授業科目の評価配分や実施時期、内容、方法等については、シラバスに記載する。

時期	内容(例)	実施方法(例)	評価配分(例)		
			①	②	③
授業中	平常点	受講態度、欠席による減点等	10%	30%	30%
	課題	レポート(ノート点検)、提出物等	30%	70%	—
	目標到達度、理解度確認	習得度・理解度チェック、実技等	60%	—	70%
* 評価の配分合計が100%になるように設定			100%	100%	100%

（注）評価配分(例)は、授業科目の特性により次のように分類している。

- ① 講義を主体とする科目（講義科目、演習主体で目標到達度、理解度の確認が必要な科目）
- ② 演習を主体とする科目（造形・絵画技法、実習指導等）
- ③ 実技科目（体育、身体活動、レクリエーション活動等）

\* ピアノ演奏技術の評価については別に定める。

(GPA の種別と算出方法)

3. GPA は、学期単位の GPA (学期 GPA) と入学時から当該期までの GPA (累積 GPA) に別れ、以下の各区分で定める方法により算出する。(小数点第 2 位以下は切り捨て)

ただし、以下の科目については GPA の算出に含まない。

- ・ 5 段階の評語による成績評価をおこなっていない科目 (教育実習、保育実習、インターンシップ等)
- ・ 本学入学前に修得した単位認定科目

$$\text{学期GPA} = \frac{\text{(当該学期の履修登録科目のGP} \times \text{当該科目の単位数) の総和}}{\text{当該学期の履修総単位数}}$$

$$\text{累積GPA} = \frac{\text{(全期間の履修登録科目のGP} \times \text{当該科目の単位数) の総和}}{\text{在学全期間の履修総単位数}}$$

(再履修した科目の成績)

4. 再履修により単位を修得した授業科目については、再履修によって得た評価と単位を GPA 算定に加えるものとする。但し、当該科目について過去に得た評価及び単位数は GPA から除外しない。

(GPA の通知と活用)

5. GPA は各期における成績表に記載され、各学生の学習成果を把握する指標とするほか、集計・分析することによって学習成果を測定する方法のひとつとする。また成績不振者に対する個別の履修指導に利用するほか、各種申請や表彰等の要件として利用することがある。

GPAの値	評価の平均値	学修での状態
4.0~3.0	「優」～「秀」を平均的に修得	非常に優秀。
2.9~2.0	「秀」～「良」を平均的に修得	問題はないが、学期ごとに下がっている場合には注意が必要。
1.9~1.0	「良」～「可」を平均的に修得	今後の学修姿勢に注意が必要。
0.9~	不合格の割合が多い	学習状況の見直しが必要。

(その他)

6. 成績評価の疑義申し立て期間については、成績表の配布後 2 週間以内とする。また、「評価基準」に関する学生からの質問や疑義には適切に対応する。